

レスキューロボット コンテスト2026

主催

レスキューロボットコンテスト実行委員会、神戸市



KOBE
CITY of DESIGN

競技会本選

会期：2026年8月8日（土曜）～8月9日（日曜）

会場：しあわせの村 体育館（神戸市北区しあわせの村1-1）

会場内の映像や写真がインターネット配信、メディアの取材等を
通じて公開・露出する場合があります。あらかじめご留意ください

私たちは過去の震災・災害を忘れません。そして被災地の復興を応援し続けます。

レスキューロボットコンテストは、阪神・淡路大震災の教訓を未来へ伝え、「技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる」という理念のもと活動しています。歴代の関係者の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

今年は新たな運営体制のもと、一步を踏み出し、理念を未来へつなぐ挑戦を続けます。要救助者人形「ダミヤン」をやさしく救助する競技を通して、「助けたいをカタチにする」若い世代の活躍を、ぜひ御覧ください。



レスキューロボットコンテスト実行委員会
実行委員長 二井見 博文
(神戸市立工業高等専門学校 教授)

レスキューロボットコンテスト(レスコン)とは



参加チーム
コントロールルーム



遠隔操縦で要救助者の
人形を助ける競技



1/4スケールのテストフィールド

見えないロボットを「遠隔操縦」

参加者は壁に隔てられ、現場を直接見ることができません。搭載カメラの映像だけを頼りに、ロボットを操縦する技術やアイデアが求められます。



要救助者人形「ダミヤン」

助けるのは、苦痛を感じる「人形」です。センサー（圧力や振動）を内蔵しており、救助活動を、どれだけ優しく行えたかを、その速さと共に評価しています。



ロボットの「チームワーク」

テストフィールドにダミヤンが3体、これを複数のロボットと人間が協力して、迅速な救助を行います。チームワークにも注目です。



フィロソフィー（理念と基本姿勢）

競技の背景には「常に現実のレスキュー活動が控えている」という「原則」のもと、人や技術への「やさしさ」を「コアコンセプト」に、レスキューのアイデアを探求します。

レスキューロボットコンテストは

技術を学び、人と語らい、
災害に強い世の中をつくる

という「理念」のもと、活動をしています

技術を学ぶ



機器を制御する技術、アイデアを形にする技術、プロジェクト管理など多様な「技術」を深めます

人と語らう



仲間とアイデアを出し議論し、他チームや関連団体との情報交換から、新たな視点やアイデアを得ます

現実のレスキュー現場を考え、相手の視点で何をすべきかを判断する姿勢が求められます。この「やさしさ」が育む科学技術の裾野の拡大により、次世代の科学技術を創出できると考えています

「やさしさ」

他のチームとの勝敗が
第一ではありません！

災害に強い世の中



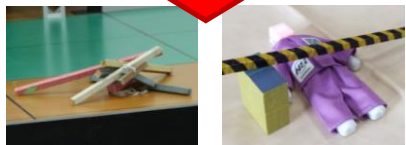
うみだした新たな技術を活かし、災害に備えることで人々と未来を守る社会貢献に繋がります

競技の流れ

会場を「国際レスキュー工学研究所」と想定し、大地震で半倒壊となった建物内部を模擬した 1/4スケールの実験フィールドの中から、要救助者を模擬した人形(ダミヤン)を探し出し、救助する競技です。



災害発生



ロボットが発進、ロボット搭載のカメラ映像による遠隔操作



フィールド内のダミヤンを助け出す



一刻も早い救出を目指せ

1/4スケールのテストフィールド

フィールド内にいるダミヤンを探し出し、救出エリア(ゴール)まで搬送します。チームは、ロボット搭載のカメラ映像だけを頼りに、遠隔操縦します。

スタートエリア: 倒壊建屋の進入口、ロボットのスタート地点です。



階段: 1階と2階とを行き来するもの、共通エリアの一部。



狭隘・閉鎖環境: 狭い環境は活動が行いにくく、情報も得にくいエリアです。



ルーム: 被災状況の確認や、ダミヤン救助を行う。内部が暗いこともあります。



救出エリア: ダミヤンを搬送するゴールです。

ダミヤン: ダミヤンは要救助者を模した人形です。内蔵された各種センサで、要救助者が救助活動中に感じる苦しさ(身体の圧迫や曲げ、衝撃・振動など)を検出し、レスキュー活動を評価するものです。



ダミヤンの様子は、会場内で表示されるインジケータにて確認できます

作業対象: 安全な救助活動や、二次災害防止のため、ロボットが行う作業を設けています

障害物: 撤去することで、安全な搬送ルートを確認します。



支援物資: 飲料を模擬した物品を、要救助者に提供します。



ガス栓: レバーを回転させることで開状態から閉状態にします。



レスコンを、もっと知りたいときには...

公式HPやSNSでは、コンテンツが盛り沢山です。レスコンやロボットについて詳しくなるだけでなく、自由研究等の参考にもなるかも...! ?



レスコンHPへ
チーム紹介・ポスターなどあり



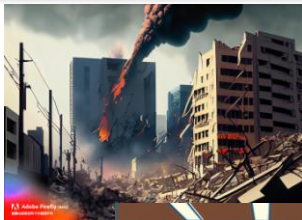
レスコンYouTubeチャンネル
過去のアーカイブ映像あり



レスコンInstagramへ
ロボットやダミヤンのPR動画あり

レスキューロボットコンテスト（レスコン）の歴史

レスコンのきっかけ ～阪神・淡路大震災～



第1回レスコンロボットコンテストの様子
(2001年7月 グランキューブ大阪)

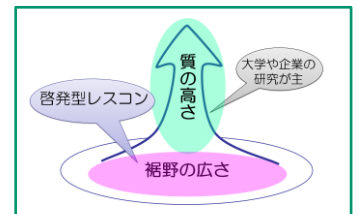
1995年1月17日、兵庫県南部を震源とする地震が発生、戦後最多（当時）の被害で、多くの死者・行方不明者・負傷者が発生しました。これが「阪神・淡路大震災」です。

被害が拡大した要因は複数ありますが、災害について「**どういものかを知らなかった**」、「**準備ができていなかった**」ことが共通するとされています。

災害に強い世の中づくりに向けて、ロボットやメカトロニクスの研究者が救助機器に関する調査を行ったところ、個々の技術的發展に加えて、防災に関する**広報**や**社会啓発**も重要であることが判明しました。

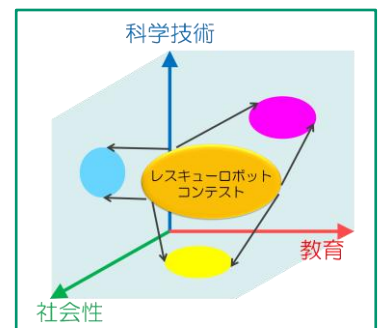
これをきっかけとして、次世代への**技術的發展**と**人材育成**の手段の1つとして、「レスキューを題材としたロボットコンテスト」の開催が提案され、いまのレスコンに繋がっています。

レスコンは、ロボットによる救助競技を通じて、防災に関する研究領域を社会へPRし、災害に対する科学技術の**裾野を広げる役割**を担っています。



レスコンの目指すもの

レスコンは、ロボットコンテストの持つ「教育」、「科学技術」に加えて、「社会性」を有することが特徴です。レスキューという実問題がテーマであることは、参加チームに対して創造性を育む機会を提供、また参加者・観覧者が災害を知り、考える機会を提供することで、防災普及啓発に繋がります。このように、「**教育**」、「**社会性**」の軸で裾野を拡げ、その上に高度な「**科学技術**」を伸ばそうとしています。



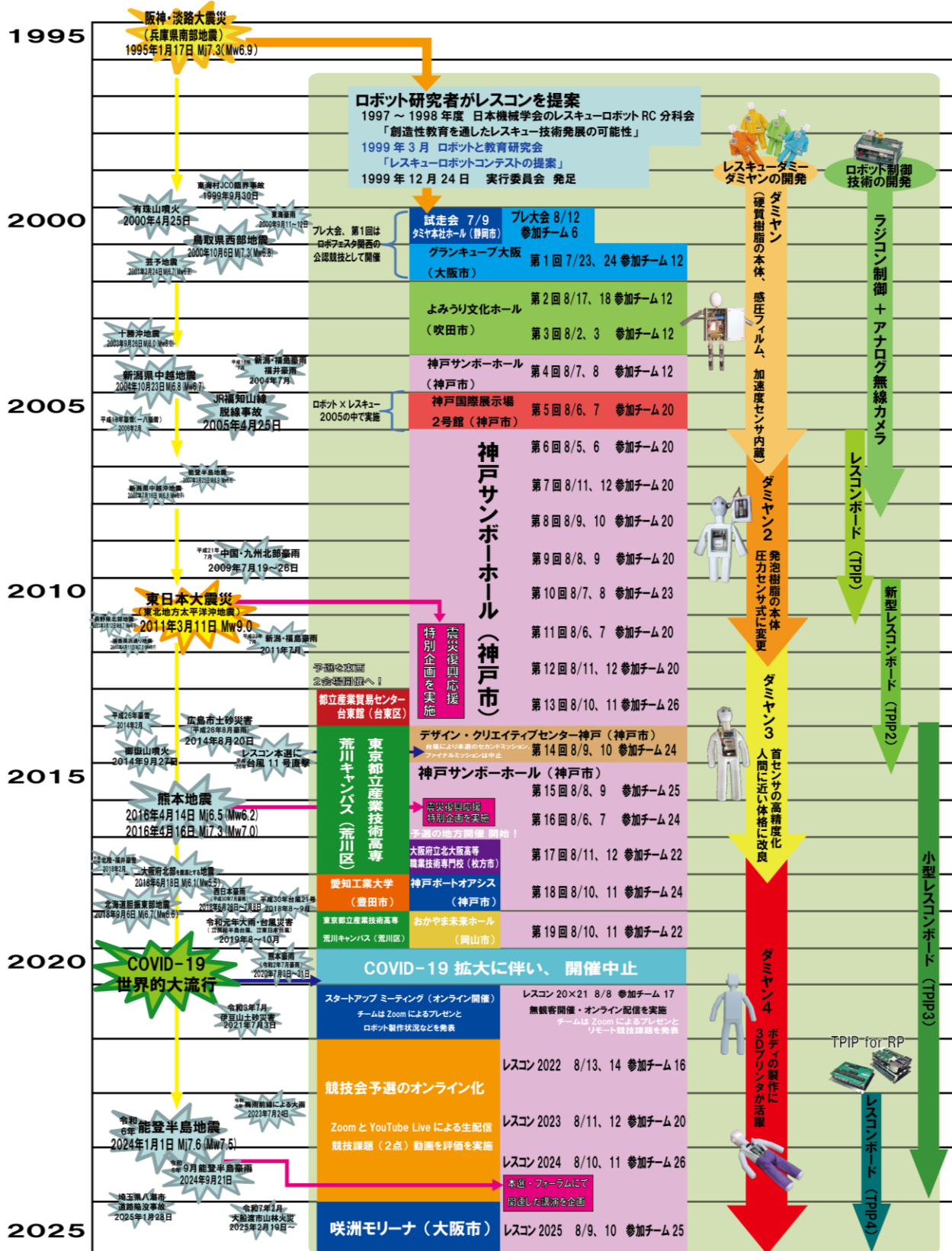
阪神・淡路大震災の発生後も、東日本大震災をはじめとする地震災害や、風水害・大事故が続いているように、災害を完全に無くすことは困難です。しかし災害について知り、備えることができれば、その被害を軽減させることができます。

レスコンはロボットコンテスト開催を通じ、過去の震災から得た教訓を忘れず、皆様とともに「**災害**」と向き合いながら、誰もが「**やさしさ**」を共感できる、**災害に強い社会**の実現を目指しています。



これまでのレスコンの歩み

阪神・淡路大震災を契機とするレスコンは、1999年3月にロボティクス・メカトロニクス研究者らによって発案され、日々発展し続けています。



レスキューロボット(災害対応ロボット)とは



レスキューロボット(災害対応ロボット)は、火災や地震などの大きな災害や、大事故がおきたとき、人が近寄れない危険な場所での活動に使われます。



災害現場では、危険を覚悟で作業される方がたくさんいます。そこでの活動にロボットを使えば、災害現場の危険から救助隊を守るだけでなく、より多くの人を助けることに繋がります。

災害現場でロボットが人と協力して活動ができると…

人が立ち入れない環境で活動ができる



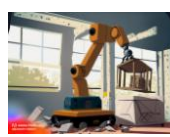
阪神・淡路大震災を契機とするレスコンは、1999年3月にロボティクス・メカトロニクス研究者らによって発案され、日々発展が続いています。ほか狭い場所や水中や高所など、人が活動しにくい環境での活動がしやすくなります。

活動にセンサーや通信機能を活かせる



ロボットに搭載された高度なセンサーを使うと、人が認識できない音や光、ガスなどを検知し、要救助者を探すことが可能です。また情報処理能力も高く、データの集約や提示をしたり、解析することも得意です。

人ができない・つらい作業を助けてくれる



建設機械のようなロボットは、人が出せないような、大きな力で活動が行えます。人よりも俊敏な動きもでき、短い時間で活動が行えたり、長時間に渡る辛い活動でも隊員が疲れにくいなどもあります。

レスキューロボット(災害対応ロボット)の仕事の例



被災状況の収集

各部屋の被災状況(危険度合、火災要因や要救助者の有無)を報告します。また要救助者の容体確認を行うこともあります。



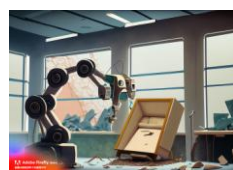
二次災害の防止活動

地震後の火災等を防ぐ為にブレーカーや、ガス栓を操作する活動です。このほかインフラ設備を操作することもあります。



要救助者の救出・搬送

災害現場に取り残されたケガ人を探し出し、安全な場所まで運びます。より「はやく」て、「やさしい」救助を行うことが求められます。



障害物の除去

主に搬送ルートを確認します。ガレキが要救助者や救助隊員に危険を及ぼす際は、補強や安定化を行うことがあります。



物資提供や応急手当

要救助者の搬送前に、現場でケガの応急手当を行ったり、ロボットに搭載された物資を提供することがあります。

これが「レスコンロボット」だ！

ロボットにはガレキを乗り越えたり、掴んだりする能力が求められます。また遠隔操縦のためのカメラやセンサー、電子機器が多数搭載されています。

※レスコンロボットはチームごとに製作されます、

以下は過去に出場したロボットの一例です



ロボットがダミヤンを助ける様子を紹介します

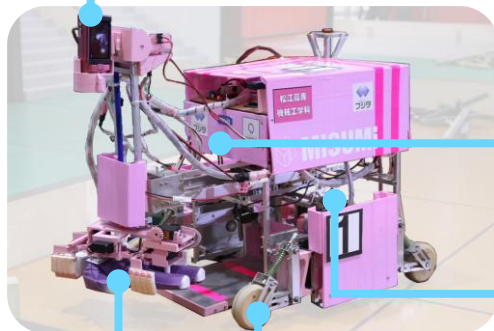
カメラ・センサ:ロボットの目となる部分です。移動や作業のために周囲を確認したり、ダミヤンの識別などに利用します。



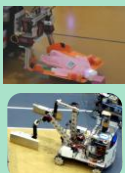
レスコンボード:ロボットの遠隔操作を実現させる装置です。独自技術により距離を感じさせない遠隔操作が可能です。



バッテリー:ロボットの動力源です。レスコンでは安全性の高いリチウムリン酸鉄電池の使用を推奨しています。



ロボットアーム:ダミヤンを助けたり、ガレキを動かすための腕です。サーボモータを用いて複雑なアームを製作するチームもあります。



移動機構:移動するための部分です。路面や目的に応じて、車輪・無限軌道・脚などから選択されます。



レスキューダミー「ダミヤン」とは

要救助者を模した人形です。内蔵された各種センサで、要救助者が救助活動中に感じる苦しさ（身体の圧迫や曲げ、衝撃・振動など）を検出し、レスキュー活動を評価するものです。

顔の色:ライトが入っていて、色が変わります。

首のセンサ:頭部を支えずに救助すると、首に負担がかかります。ダミヤンの首には、その負担を計測するセンサが搭載されています。

※ゲーム機で使われる部品です



圧力センサ:ダミヤンの内部は空気で満たされた構造をしており、押されると変形します。ロボットがダミヤンを強くつかむと、その力を圧力センサが計測します。



通信機器:手のひらに収まる小型コンピュータを搭載しています。センサのデータを無線通信で会場内のコンピュータへ送信します。



ダミヤンを、もっと知りたいときには...

競技のなかでは、ダミヤンは生きていて、人格があるという設定です、日常生活を想像してみてくださいね。



ダミヤン達の日常、食べたり、おでかけもしているよ



ダミヤンは「デバイス」なんだ！



ダミヤンの歴史(れきし)もしらべてみよう！



レスコン2026参加チームと、これまでの軌跡

レスキューロボットコンテスト2026は、10月1日に開催が発表となり、12月1日からチーム募集を開始しました。24チームが約半年間に渡るロボット開発を行い、最優秀賞である「レスキュー工学大賞」を目指します。

開催発表(10月)



応募期間は12月1日から翌年1月31日まで

ロボット製作(2~6月)



チーム毎にアイデアをまとめ、ロボットを製作します

競技会予選(6月)



ロボットの完成度を動画で提出、成果はYouTubeで公開しています

競技会本選(8月)



選抜された12チームが神戸市に集結し、ダミヤン救助に挑む

レスキュー工学大賞

チーム名	団体名
RMF Rescue	電気通信大学 ロボメカ工房
Iterators	関西学院大学 ロボコンプロジェクトAiMEiBA
UP- RP	大阪工業大学 梅田プログラミングロボットプロジェクト
AoDレスキュー	室蘭工業大学 夢工房
S. S. S. S	学生・社会人合同チーム
MCT	松江高専
★ がんばろうKOBE	神戸市立高専
QoQ	芝浦工業大学 マイクロロボティクス研究室
救命ゴリラ!!	大阪電気通信大学 自由工房
K. KNIGHTS	KINKI KNIGHTS (学生・社会人有志チーム)
SAZANKA	名古屋工業大学 レスキューロボットプロジェクトSAZANKA
大工大エンジュニア	大阪工業大学 ロボットプロジェクト

チーム名	団体名
TASUKE隊	産業技術短期大学 ロボットプロジェクト
チームホビーロボット	チームホビーロボット (社会人有志チーム)
とくふあい!	徳島大学 ロボコンプロジェクト
長湊ボーダーズ	愛知工業大学 レスキューロボット研究会
Beast-Lab.	東京科学大学 ロボット技術研究会
Fukaken	大阪公立大学高専 福祉科学研究会
HolyLab	東京都立産業技術高専 荒川キャンパス
RIM lab	芝浦工業大学 実世界情報メカトロニクス研究室
レスキューOCT	大阪工業技術専門学校 ロボット機械学科
レスキューHOT君	近畿大学福岡 ロボット工作研究会
レスキューやらまいか	静岡大学 ロボットファクトリー
六甲おろし	神戸大学 ロボット研究会

50音順

★は「主催者枠チーム」を表します。

競技会本選(8月8日~9日)へ出場するチームです。

スケジュール・会場マップ

8月8日(土曜) 開場 13:00

13:30~ 開会式
17:30 ファーストステージ第1~12 競技

8月9日(日曜) 開場 9:30

09:45~ 11:00 セカンドステージ第1~4 競技

休憩

12:00~ 14:30 ファイナルステージ第1~6 競技

特別講演
高温環境に対応した監視点検用
クローラロボットARTHURの消防応用
14:30~ 15:30
講師:渡邊 彩夏 氏
サンリツオートメーション株式会社
AMC事業推進部 主任技師

15:30~ 16:00 表彰式・閉会式



Rescon2026 Special Thanks

大塚化学POTICON杯レスキューロボットコンテスト2026は、趣旨にご賛同いただいた個人・協賛団体の皆さまの温かいご支援とご協力により、開催することができました。
継続的なご支援が本活動を支えていることに、心より感謝申し上げます。

主催 レスキューロボットコンテスト実行委員会、神戸市 **特別共催** 総務省消防庁
共催 公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門、
一般社団法人日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門、一般社団法人日本ロボット学会

特別協賛 大塚化学株式会社 **オフィシャルサプライヤー** サンリツオートメーション株式会社

協賛A 株式会社フジタ、ラムリサーチ合同会社

協賛B 株式会社エクセル、川崎重工業株式会社、タカラベルモント株式会社、ホーチキ株式会社、
ミツテック株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、ローランド ディー・ジー 株式会社

協賛C 株式会社愛和産業、エヌ・ティー・シー株式会社、株式会社ONO plus、一般社団法人神戸市機械金属工業会、
サイレックス・テクノロジー株式会社、株式会社シーク、株式会社シンプルファイター、株式会社ダイヘン、
一般財団法人土佐幡多の会、日本マイクロシステムズ株式会社、株式会社三輪

賞品提供 株式会社アーテック、株式会社ロボティズ

後援 近畿経済産業局、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸商工会議所、公益財団法人関西経済連合会、
公益財団法人新産業創造研究機構

特別協力 大塚化学株式会社、株式会社グーテンベルク

協力 特定非営利法人国際レスキューシステム研究機構、一般社団法人神戸市機械金属工業会、バンドー神戸青少年科学館、
神戸市立工業高等専門学校、産業技術短期大学、北陽電機株式会社、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会、
株式会社ウエルネスサプライ

このほかご寄付をいただいた皆様、参加チーム・ご来場の皆さま、運営スタッフや事業協力いただいた全ての皆さまへ、感謝を込めて。

事業運営 一般社団法人レスキューロボットコンテスト

※この事業は「公益財団法人中内力コンベンション振興財団」の助成を受けています。

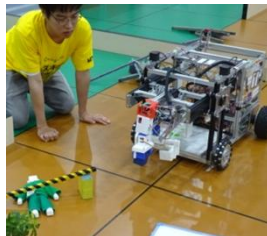
※この事業は「公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構」補助金を財源とする「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けています。

災害に強い社会の実現へ、レスコン継続開催へのご支援をお願いします

レスキューロボットコンテストは、四半世紀にわたり、多くの皆さまのご理解とご支援に支えられ活動を続けてまいりました。これまで支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

本コンテストは、皆さまからの協賛やご寄付、ご協力など、さまざまな形のご支援によって成り立っています。災害に強い社会の実現と次世代を担う人材育成のため、今後も継続開催への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本コンテストは実行委員をはじめ、多くの皆さまのご協力により運営されています。運営に携わっていただける皆さまのご参画を、心よりお待ちしております。



会場内での注意事項

円滑なイベント運営の為に、皆さまのご協力をお願い致します。



スマホ等のWi-Fi等はオフに
(ロボット誤動作防止)



飲食および喫煙は
ご遠慮ください



フラッシュを伴う
撮影は禁止



来場者アンケート
ご意見をお聞かせください

ロボット達は無線LANで動作しています。電波干渉を防止するために、
会場内では**Wi-FiやBluetoothの機器をご使用にならない**でください。
※紛失防止タグ(スマートタグ)の場合は、電池を外してください。